

◎第6回理事会 (36.11.27)出席者：永田会長，ほか副会長および理事9名。

議事：1) 特別員増強対策について。2) 本州四国連絡橋技術調査委員会内規および委員30名を承認。3) 土木工学ハンドブック改訂版の頒価を安くするよう再検討すること。4) 北海道支部奨励賞授与規程を承認。5) 学会誌の内容平易化について。6) 吉田博士記念事業資金の保管方法について。7) 10月中旬会員入退会を承認。8) 会計報告その他各種委員会報告を承認。

◎各種委員会

(1) 第5回会誌編集委員会 (36.10.24) 出席者：塚副委員長，ほか委員18名。議事：1) 投稿原稿の審査報告および新規受付原稿審査委員の決定。2) 原稿依頼状況について。3) 46巻12号登載原稿について。4) その他。

(2) 第4回出版企画委員会 (36.10.24) 出席者：荒井副委員長，八十島幹事長，ほか委員6名，幹事3名。議事：1) 下半期出版図書計画について。2) 土木工学ハンドブック改訂について。3) 新規出版計画案について。4) 土木工学用語集について。5) 高校土木教育研究会の状況とワーク・ブック類の編集について。6) その他。

(3) 第2回定款改正委員会 (36.10.26) 出席者：委員5名。議事：1) 第1回委員会(10.9)の討議事項を再検討し，次の事項を第二読会で検討することとした。①土木学会誌名について，②賛助会員の会費について。2) 第13条～第23条を討議。

(4) 第1回水理委員会幹事会 (36.10.26) 出席者：伊藤委員長，ほか委員12名。議事：1) 水理委員会内規審議の経過報告。2) 水理委員会幹事会の構成について。3) 副委員長の選出について。4) 水理研究会会員に対する措置について。5) 「水理学研究の現況」の編集ならびに刊行について。6) 「水理公式集」の改訂について。

(5) 第1回地震工学国内シンポジウム幹事会 (36.10.27) 出席者：岡本委員長，ほか幹事3名。議事：地震工学国内シンポジウム(1962年)開催予告ならびに発表論文募集案について検討した。これにより基本方針をきめた次回委員会(11月6日)にかけることにした。

(6) 合成桁鉄道橋設計示方書に関する研究委員会・第1回 (36.10.27) 出席者：沼田委員長，ほか委員11名，幹事7名。議事：1) 沼田委員長より2年間の予定で合成桁鉄道橋に関する研究についての方針を述べられた。2) 鋼道路橋の合成桁設計施工指針との問題をあげて検討した。3) 合成桁鉄道橋設計示方書案について適用範囲，定義，材料の各条項を討議した。

(7) 土木学会50周年記念事業委員会・第2回常任委員会 (36.10.30) 出席者：常任委員8名。議事：1) 記念事業委員会内規および第1回常任委員会の協議事項を確認。2) 常任委員会を企画委員会に移行する場合に企画委員会の性格につき討議されたが，結論は次回に持ち越すこととなった。3) 準備幹事会の任務について。4) その他。

(8) 第1回鉄筋コンクリート標準示方書改訂小委員会 (36.10.31) 出席者：国分委員長，川口主査，ほか委員32名。議事：1) 10月11日の打合会の経過報告および議事録について説明。2) 改訂意見について。3) 小委員会の運営方針について。4) 委員の追加委嘱について。

(9) 第6回構造物耐震設計研究委員会幹事会 (36.11.1) 出席者：久保幹事長，ほか委員18名。議事：第5回幹事会で担当を割当てた耐震設計資料のうち2章，設計震度につき担当幹

事がとりまとめた結果を説明，審議した。今回は11月29日ときめ，1章総則，4章けたおよび支承，水中構造物，土質関係などの章を審議する予定。

(10) 第1回PC設計分科会 (36.11.2) 出席者：猪股主査，ほか委員12名，幹事2名。議事：1) 清野，森野，西山，今村，国広の各委員より，実験予定につき説明。2) PC設計施工指針のうちの設計に関して次回改訂までに検討すべき研究事項につきテーマ別に担当者をきめ，調査を開始するよう申合せた。

(11) 第1回PC鉄道橋設計施工基準研究委員会幹事会 (36.11.2) 出席者：川口委員，ほか幹事11名。議事：委員会の運営方針について・1) 第1回委員会にとりきめた目次に沿ってそれぞれ担当幹事をきめ，それぞれのテーマにつき目次を作って持ち寄るように取り決めた。2) 10月16日までに学会にその目次を提出することにし，次回幹事会をその後11月18日に開催することに決定した。

(12) 第2回地震工学国内シンポジウム運営委員会(36.11.6) 出席者：岡本委員長，ほか委員9名。幹事：1) 10月27日の幹事会で立案したシンポジウムの内容につき説明。2) 開催期日，名称，論文締切期日，講演およびパネル討論，公告の件につき審議した。3) 次回幹事会を12月4日に開催することにし，今回は，会場，議事録，出版部数，会計関係の資料を事務局で調整し提出，審議する。

(13) 第6回会誌編集小委員会 (36.11.6) 出席者：塚副委員長，針ヶ谷委員。議事：1) 46巻11号絵写真，ニュースの選定。2) 46巻11号の追加原稿について。3) 各県の建設工事状況の紹介について。4) 表紙の新しいデザインについて検討。5) 46巻12号会誌編集につき最終的打合せを行なった。

(14) 第6回文献調査委員会 (36.11.6) 出席者：久野委員長，ほか委員9名，幹事1名。議事：1) 46巻12号登載抄録，目録の決定。2) モニターからの要望事項について検討した。3) 投稿原稿について。4) その他。

(15) 第2回PCグラウト分科会 (36.11.7) 出席者：国分委員，樋口主査，ほか委員8名，幹事2名，中野氏(建研)。議事：1) 第1回分科会の議事録の説明承認。2) 土木学会検定基準について審議。3) グラウト分科会の活動方針案の検討。4) FIPの質問状について。5) PCグラウト試験方法2,4,6章のグラウト試験器具の検定および取扱業者の決定について。6) 委員の追加委嘱について。7) 次回分科会を12月15日に開催することに決定。

(16) 第1回PCコンクリート分科会 (36.11.8) 出席者：国分委員長，村田主査，ほか委員7名，幹事3名。議事：1) 研究課題(案)を審議し，各研究テーマ別に担当委員を決定。2) 分科会の運営方針について審議。

(17) 高校土木教育研究会幹事会 (36.11.11) 出席者：八十島幹事長，ほか幹事9名。議事：1) 学会独自の出版について。2) 土木製図監修について。3) 出版社の調査について。4) 各幹事の分担について。5) ワークブックの刊行について。6) 幹事会より学会への申入れ事項。

(18) 第52回耐震工学委員会 (36.11.13) 出席者：那須委員長，ほか委員9名。議事：1) 第5回地震工学研究発表会の報告。2) 地震工学国内シンポジウム運営委員会の進捗状況について報告。3) 第3回地震工学国際会議について。4) 地震工学位レニングセンターについて。5) 国鉄構造物耐震設計研究委員会の経過報告。6) 委員の交代について。7) 土木賞推薦論文について。8) 次回委員会を12月11日に開催する予定。

(19) 第7回異形鉄筋設計研究小委員会 (36.11.14) 出席者：国分委員長，ほか委員8名。議事：橋台，橋脚の図面につき再

審議を行なった。

(20) 鉄筋コンクリート標準示方書改訂小委員会・第1回荷重に関する部会(36.11.15)出席者:委員4名。議事:鉄筋コンクリート標準示方書改訂小委員会委員のうち、荷重に関する担当委員が集まり、荷重に関する条項の取りまとめ方について審議した。今回は12月8日に開催する。

(21) 第3回論文編集各部委員会・第1部会・第3部会・第4部会(36.11.15)、第2部会(36.11.16)出席者:第1部会・久保部会長、ほか委員5名、第2部会・林部会長、ほか委員5名、第3部会・委員5名、第4部会・丸安部会長、ほか委員7名、その他・奥村理事、西脇幹事。議事:1)審査中原稿の審査報告。2)新規受付原稿の審査委員の決定。3)その他各部会ごとに討議した。

(22) 第2回PC鉄道橋設計施工基準研究委員会幹事会(36.11.18)出席者:国分委員長、ほか委員および幹事11名。議事:前回幹事会で担当願った目次を事務局でまとめたので、それに沿って各編、章、条につき審議した。これにより1月13日までそれぞれ各担当幹事に本文の作成を願ひ、次回1月19日の幹事会より逐条審議することに決定。

(23) トンネル工学研究のための委員会設置の打合せ(36.11.20)出席者:(建設省)伊吹山四郎、(大学)丸安隆和、奥村敏恵、(国鉄)坂本貞雄、長浜正雄、(道路公団)田原保二、(電力)新井義輔、(学会)末森専務理事、堀内職員。議事:1)委員会設立趣意書の説明。2)委員会の構成、事業、経費などについて意見の交換があり、次回さらに検討することとなった。

(24) 第6回会誌編集委員会(36.11.21)出席者:堺副委員長、ほか委員13名。議事:1)投稿原稿の審査報告および新規受付原稿審査委員の決定。2)原稿依頼状況について。3)表紙改正について。4)47巻1号登載原稿について。5)その他・委員会終了後名簿管見希望訪問、製品・技術・工法の紹介、各県案内についてグループ別におかれて協議した。

(25) 第2回土木工学ハンドブック改訂主査委員会(36.11.21)出席者:福田委員長、奥村、長浜両編集担当理事、ほか主査18名、末森専務、出版社職員2名。議事:1)原稿締切日、発行期日について。2)主査および執筆者、幹事について。3)内容の検討。4)幹事会の作業。5)製本の体裁、予定価格。6)改訂原稿の謝礼。7)新契約案について。

(26) 第2回PCコンクリート分科会(36.11.22)出席者:村田主査、ほか委員6名、幹事3名。議事:1)第1回分科会議事録の承認。2)PC用骨材の使用状況に関する調査表について審議。3)配布資料の説明。4)長期試験計画について。5)今回は来春に予定する。

(27) 鉄筋コンクリート標準示方書改訂小委員会・板に関する部会(36.11.25)出席者:担当委員4名。議事:鉄筋コンクリート標準示方書改訂小委員会委員のうち、板に関する担当委員が集まり、板に関する条項の取りまとめ方につき審議した。今回は12月11日を予定する。

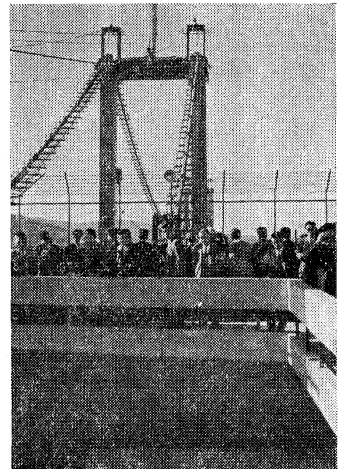
◎その他の行事

(1) 秋のエキスカーション(36.11.7~8日の両日、本部および西部支部共催・北九州地区視察旅行)

本年のエキスカーションは参加者75名を得て、躍進めざましい北九州地区を見学した。関門国道トンネル、若戸橋架橋工事、北九州道路、福岡市内および博多港など、限られた日程ながら西部支部当局の綿密なスケジュールを無事に消化し、多大の成果をあげることができた。鹿島建設KKはじめ業界各位の御協力ならびに九州地建、福岡県土木部、八幡市土木部、国鉄下関工務局・西部支社・門司鉄道管理局、運輸省第四港建・洞

海湾工事事務所・博多港工事事務所、福岡市港湾局、日本道路公団福岡支社・関門トンネル管理事務所・北九州道路管理事務所・若戸橋工事事務所など、御多忙のところ種々便宜を計って下さった関係各所の方々に対し、紙上より厚く御礼申上げる次第です。紙面の都合上、詳細な記録は省略するが、機会をみて個々の工事状況を学会誌に発表する予定である。

若戸橋工事状況を見学する会員



(2) 第2回学生の

ための映画会(関東地区)

日時:36年11月18日(土)15.30~17.00

会場:土木学会会議室 参加者:23名

上映映画:a.洪水と対策 b.水の波

c.防潮堤の話 d.北海道

(3) Ippen 教授来朝に際して

国際水理学会(I.A.H.R.)会長、マサチューセッツ工科大学(M.I.T.)教授、水理実験所長・Arthur T. Ippen 博士はユーゴスラヴィヤにおける第10回I.A.H.R.大会の帰途来日されたので、土木学会主催による懇談会および歓迎パーティーを下記のとおりに開催した。

日時:昭和36年11月15日16時より懇談会、18時より歓迎パーティー

場所:国際観光ホテル

懇談会においては、Ippen 博士が約1時間にわたり

開水路の抵抗法則について

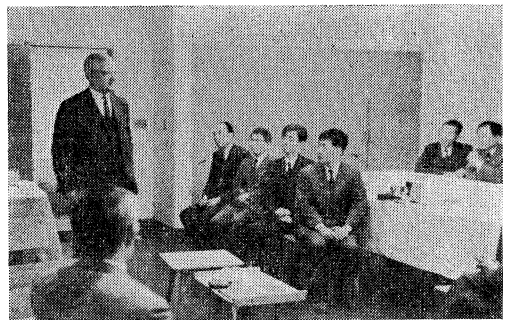
曲線梯形水路におけるせん断応力の分布について

懸濁物質をもった開水路の力学について

と題する講演を行なわれ、ひきつづき参加者(15名)の質問に熱心に答えられた。

18時からの歓迎パーティーには永田会長、滝山副会長、伊藤水理委員会委員長ほか在京水理関係者有志11名が出席した。

Ippen 教授をかこんで談笑する参加者



支 部 だ よ り

◎北海道支部

幹事長交代(旧)七田 茂氏(石川県土木部長)

(新)中村 稔氏(北海道土木部道路課長)

◎東北支部

(1) 大倉ダム見学会 36年10月19日

行程：県庁前発(9時30分)～大倉ダム着(10時20分・見学2時間)・大倉ダム発(12時20分)～作並温泉着(12時40分)・作並温泉発(15時00分)～県庁前着(16時00分)解散

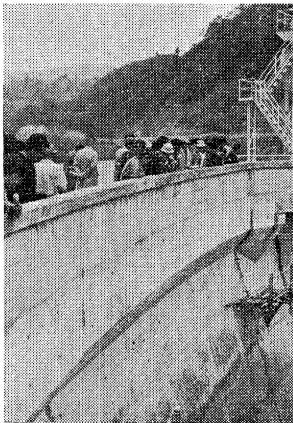
参加人員 100名
会費 300円

(2) 水工学講習会

(36.11.7～8の両日東北大学工学部土木工学科教室)

参加者 190名

大倉ダムを見学する参加者



講演会次第

1. 東北支部長開会あいさつ	樋浦大三
2. 水工学の最近の進歩について	本間仁
3. 港湾計画論	宮崎茂一
4. 海岸の現地観測	井島武雄
5. 水文学と水文観測	竹内俊士
6. 北上川洪水解析について	井田至春
7. 余水吐の減勢装置について	岩崎敏夫
8. 河道計画論	吉川秀夫
9. 溪流取水複式サージタンクを中心とした水路の設計問題	千秋信一
10. 水力発電に関する二、三の問題について	大島達治
11. 東北支部長閉会あいさつ	樋浦大三

講習会会場



東北支部主催講習会は例年土質学会との共催であったが、今年始めて単独で開いた。始めは多くの困難が予想されたのであるが、実際は非常な成功であった。次に内容の概略を説明する。まず本間教授は河川の災害と利水面との関係を示す興味ある考え方を提示せられ、次に宮崎茂一氏は港湾計画について、わが国の実情を具体的にとらえた上で、高い技術者の立場から論を進められた。海岸の現地観測は運研の井島氏が、また河川の水文観測は土研の竹内氏が数年にわたって従事せられており、いずれも単なる観測技術にとどまらず、資料の解析の取扱方にまで進んでおいて直接水工学に従事する技術者に貴重な講義であった。井田至春氏は北上川の洪水解析を Facom 128B で行なった結果を報告されたが、降雨より流出を導びきさらに洪水を運動と連続方程式によって追跡した過程は最も理論的であり今後の洪水計算に重要な一里塚を立てたものとして注目される。岩崎教授の余水吐減勢装置についての講義は多くの資料を体系

的に集められており、吉川秀夫氏の河道計画論は特に理論的な河道計画の考え方の筋道を示唆したものとして注目される。千秋信一氏は溪流取水の場合の気泡除去の方法について詳述し、また複式サージタンクの振動解析を述べた。また大島達治氏は AFC 運転がサージタンクにおよぼす影響について最近の研究を紹介し、またチューブラー水車について説明したが、この両者の講義は発電水力における最近の技術的話題を興味深く講述せられたものであって、価値が高い。

本講習会は単なる啓蒙にとどまらず、最近の水工学の動向を示されており、また各講師の平素の研究成果が反映されていて技術の進歩に貢献することが少なくないと思われる。

このような有意義な講習会を持ち得たことについて各講師に誌上で改めて謝意を表したい。

◎中部支部

(1) 評議員(新) 成岡昌夫(名古屋大学工学部教授)

11.4

(*) 七田 茂(石川県土木部長) 11.13

(*) 鹿島健次(国鉄長野鉄道管理局施設部長) 11.21

(*) 秋永規輔(富山県土木部長) 11.25

(旧) 吉田直茂(旧石川県土木部長) 11.13

(*) 小林庄平(旧石川県副知事) 11.13

(*) 竹内孝熊(旧国鉄長野鉄道管理局施設部長) 11.21

(*) 富谷 巖(旧富山県土木部長) 11.25

(2) 幹事(新) 中井善人(国鉄名古屋工務局)

11.8

(旧) 島田隆夫(国鉄岐阜工務局土木課長)

◎関西支部

(1) 昭和 36 年度関西支部年次学術講演会 (36.11.12 神戸大学)

a) 特別講演

① 産業立地からみたこれからの阪神都市圏と近畿広域圏
神戸大学経済経営研究所 教授 経営学博士 米花 稔

② 6月末豪雨による六甲山系の災害と将来の災害予想
神戸大学工学部 教授 工学博士 田中 茂

b) 一般講演 51 題

参加者 217 名 参加費 無料

(2) 第 6 回学生見学会 (36.11.18) 第三港建摩耶埠頭および新三菱重工神戸造船所を見学

参加者 80 名 参加費 50 円

(3) セメント コンクリート講習会 (36.11.21～22 の2日間、大阪府職員会館)

(1) 最近のセメントの概況 大阪窯業セメント伊吹工場 工博 津村 宗治

(2) わが国におけるレディミキストコンクリート工業の現況と問題点 小野田セメント中央研究所 工博 高野 俊介

(3) フライアッシュの利用に関する最近の研究 日本セメント研究所次長 左右田孝男

(4) コンクリートの各種混和剤 立命館大学教授 工博 明石外世樹

(5) メタルフォームについて 八幡メタルフォーム常務取締役 草野 美男

(6) 高炉セメント コンクリートの養生について 近畿地建大野ダム工事事務所長 山岡 一三

(7) 「プレストレストコンクリート設計施工指針」改訂の要旨 京都大学教授 工博 岡田 清

(8) PCグラウトについて 日本道路公団名神高速道路試験所 武田 昭彦

(9) PC鋼材について 住友電気工業特殊線事業部技術部長 武尾敬之助

(10) プレロード・タンクの設計 国際コンクリートKK社長 木村又左衛門

(11) 国鉄大阪環状線におけるコンクリートまたぎ高架橋の設計と施工 国鉄大阪工務局環状線課長 横田 光彦

(12) 名神高速道路におけるコンクリート構造物の設計と施工について
 日本道路公団名神高速道路第一建設局特殊設計課長 藤森 哲
 参加者 355 名 参加費 500 円

(4) 第2回商議員会 (36.11.17, 府立労働会館) 出席者:
 (商議員) 赤井, 川島, 小西(次, 代理芝谷), 長谷川, 水野(俊), 谷, 中平(代理柳), 黒井, 血沢, 藤田, 赤尾, 芳内, 水野(福), (常議員) 岩井, 高津, (理事) 小西(一) (支部長) 高津, (幹事長) 米谷, (幹事) 赤尾, 岡田,

水野(福), 毛利, 岩崎, 芳内, 小仲, 小笠原 (代理井関), 大村

(5) 第7回幹事会 (36.11.17, 府立労働会館) 出席者: 高津支部長, 米谷幹事長, 岡田, 岩崎, 水野, 芳内, 毛利, 小仲, 小笠原(代理井関), 大村の各幹事

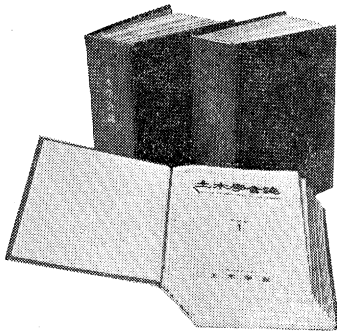
(6) 幹事委嘱
 KK栗本鉄工所鉄構設計部長 小仲次郎氏 に幹事を委嘱した。

編集後記

日増しに交通事情が悪化していくのが目に見えるような気がする昨今, これに対応して各種建設工事も急ピッチで進められている。おかげで土木技術者の不足がいちじるしく目立っており, この一年間振り返って見るとまことに多忙であったし, また新しく迎える年も多忙であるようだ。その忙しい中を編集委員会には毎回十数人集って, 熱心に打合せが行なわれている。会誌に対する会員諸兄の御意見, 御希望が手紙あるいはその他の形で届くと, それをどのような形で採用していくか慎重審議している様子は, 民主主義のこの時代において当然のことではある

が, まことに立派なものであると自画自賛させていただいてもよいのではないかと思う。しかしその結果生まれるところの会誌についてお叱りの向きもあろうかと思うが, その節はぜひお便り下さると有難い次第である。

例年だと1月号から表紙の色がまた変わるわけであるが, 色だけでなくもっと近代的な親しみやすい表紙に変えたらという御意見がかなりあるようであり, この点について数カ月来検討されている。どのようになるか, 色を変えるだけに止まるとしてもどんな色になるか非常に楽しみにしている。昭和36年よさうなら
 【針ヶ谷・記】



土木学会誌の保存は合本ファイルで

毎月の学会誌は貴重な研究資料です。学会誌の保存には3つの特長をもつ合本ファイルをご利用下さい。

①操作がきわめて簡単, ②本の組替えが自由, ③製本費が省ける
 B5判学会誌12冊とじ用 (薄グリーンクロス装, 金文字入)

定価 150 円 (〒70 円)

お申込みは東京都新宿区四谷一丁目土木学会へ (振替 東京 16828 番), 入金次第発送いたします。

土木工學論文抄録 第3集	A4判	230頁	頒価: 500円	会員特価: 250円 (〒120円)
同 第4集	A4判	273頁	頒価: 450円	会員特価: 225円 (〒80円)
同 第5集	A4判	378頁	頒価: 1200円	会員特価: 800円 (〒120円)
同 第6集	A4判	500頁	頒価: 2500円	会員特価: 2000円 (〒120円)

会員入退会について (昭和36年11月1日から30日まで)

1. 入会	64名 (正35 学29)
2. 退会	3名 (正2 特1. C 1)
3. 転格	1名 (正→学1)

会員現在数 (昭和36年11月30日現在)

名誉正員	学生員	賛助員	特級	特1.A	特1.B	特1.C	特1.D	特2	計	(増)
39	13282	1263	30	12	14	27	133	224	16	15040 (61)

昭和36年12月10日印刷

昭和36年12月15日発行

土木学会誌 第46巻 第12号

印刷者 大沼正吉

印刷所 株式会社技報堂

東京都港区赤坂溜池5番地

発行者 末森猛雄

発行所 社団法人土木学会

東京都新宿区四谷一丁目

定価 200円 (送料15円)

振替 東京 16828 番

電話 (351) 5130・5138・5139 番